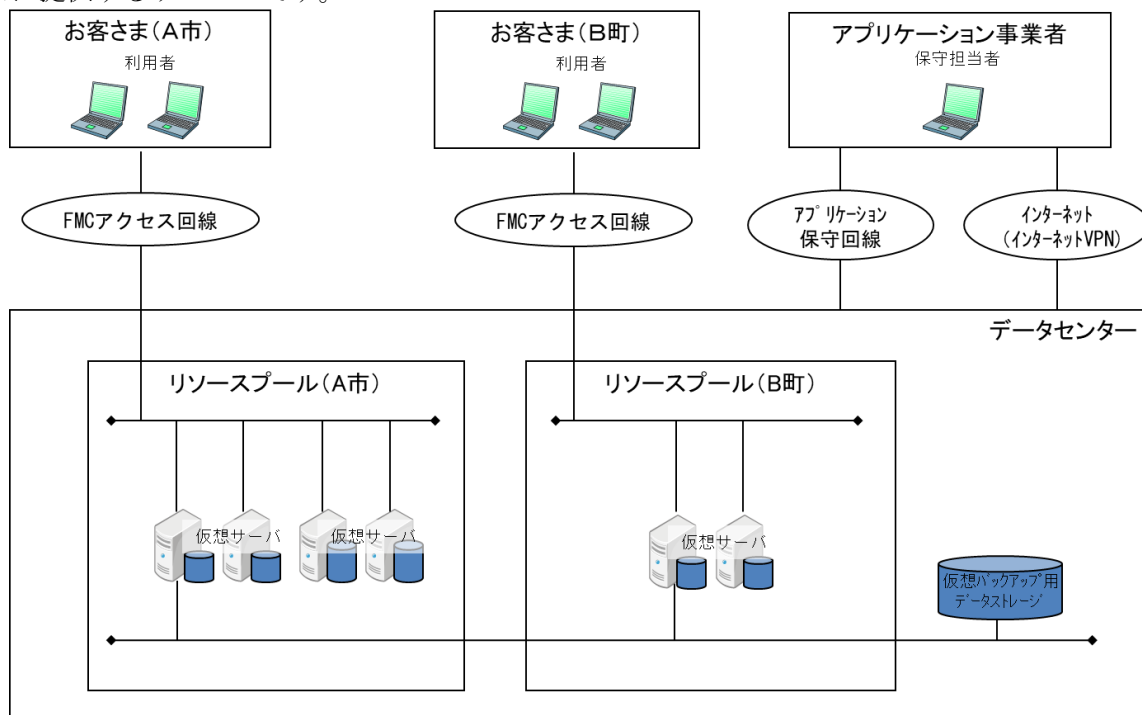

別紙

FMC-aaS サービス仕様

令和6年12月

サービス内容

本サービスは、仮想化技術を活用して統合されたサーバ、ストレージ、ネットワークを、当社の安心・安全なデータセンターに設置することにより、安価・安心・安全な仮想サーバをお客さまに提供するサービスです。



IaaS サービス

仮想ハードウェア

仮想ハードウェアについては、必要な数量をご利用できます。ただし、ご要望の仮想ハードウェアが、FMC IaaS 基盤の物理リソース容量を超過する場合には、物理リソースの増強を行いますので、ご提供までに 3 ヶ月程度の期間が必要となります。このような大規模な導入、拡張については、事前にご相談ください。

<仮想ハードウェア>

仮想サーバ(詳細については、別紙「I. 仮想ソフトウェアについて」をご参照ください)

仮想データストレージ

仮想バックアップ用データストレージ

エッジゲートウェイ(仮想ファイアウォール、仮想ロードバランサー等の機能)

(1) サービスメニュー

仮想ハードウェアは以下のサービスメニューに沿ってご提供します。

サービスメニュー		提供単位	説明
仮想サーバ (基本)	ハイスペック	1台	CPU : 4vCPU、メモリ : 8GB ディスク : 50GB
	ミドルスペック	1台	CPU : 2vCPU、メモリ : 4GB ディスク : 50GB
	ロースペック	1台	CPU : 1vCPU、メモリ : 2GB ディスク : 50GB
仮想サーバ (オプション)	CPU 増設	1vCPU	最大 32vCPU (合計)
	メモリ増設	1GB	仮想サーバ用の増設メモリを提供します。
仮想サーバ (停止)		1台	仮想サーバの未利用期間に CPU・メモリを削除し、ディスク (50GB) のみを提供します。*1
仮想データストレージ (SAS)		10GB	仮想サーバ用のディスクを提供します。
仮想バックアップ用 データストレージ		10GB	バックアップ用のディスクを提供します。
エッジゲートウェイ		1台	仮想サーバ用の仮想ファイアウォール機能及び仮想サーバへのアクセス負荷を分散する仮想ロードバランサー機能を提供します。

*1 2台目以降の仮想サーバ利用時に限ります。なお、仮想サーバ停止中も仮想データストレージ、Windows Server ライセンス等の費用は必要となります。

(2) 仮想データストレージ

(a) 仮想データストレージの種類

仮想サーバのストレージは、フラッシュディスクを提供します。

(b) 仮想データストレージの容量

仮想サーバのディスク容量は以下の式のとおり VMware の管理情報を保存する領域とスナップショット領域を合わせた容量となります。すべての領域をゲスト OS で使用することができませんのでご注意ください。

仮想データストレージの容量(総容量)

= (ゲスト OS のディスク容量計 + メモリ容量計) + スナップショット領域の容量

(c) スナップショット

スナップショットを使用するとスナップショット作成時の仮想サーバの状態 (仮想サー

バメモリ、設定、ディスク)を保存できます。スナップショットを使用する場合は最大で「ゲスト OS のディスク容量計+メモリ容量計」と同じ容量が必要になります。

(3) 仮想バックアップ用データストレージ

お客さまが構築するアプリケーションのデータバックアップ用のストレージとして、仮想データストレージとは物理的に異なる筐体にて仮想バックアップ用データストレージを提供します。

仮想バックアップ用データストレージは、NAS での提供となり、NAS への接続は CIFS を利用します。

(4) エッジゲートウェイ

FMC IaaS ではエッジゲートウェイによる仮想ファイアウォールや NAT 等の機能を提供します。

エッジゲートウェイはご利用業務システムにつき1台、無償でご利用いただくことができます。

(2 台目以降は有償)

ソフトウェア

(1) ゲスト OS

ゲスト OS は Windows Server OS を除き、お客さまが所有するライセンスの持ち込みが可能です。

(a) Windows Server OS

- Windows Server OS のご利用については、マイクロソフト社のサービスプロバイダライセンスアグリーメント (SPLA) に基づき、当社がライセンスを提供し、インストールまで行います
- 当社が提供したライセンスについては、OS が動作する FMC IaaS 基盤に関連する技術サポートをご提供します

当社がインストールした OS については、お客さまのご判断により、セキュリティパッチを適用することが可能です。なお、マイクロソフト社の保守サポートが終了となったバージョンは、当該バージョンのサポート終了日をもって新規提供・保守サポートの対象外となります

- 詳細については別紙「II. 提供可能 OS について」をご参照ください。

(b) Microsoft Remote Desktop Service

- Windows Server をデスクトップ用 OS として利用し、ターミナルサービスで仮想デスクトップ環境を構築する場合は、上記 OS のライセンスに加え、Remote Desktop Service SAL (Subscriber Access License) が必要となります

- ・ ソフトウェアシュアライセンスによるライセンスモビリティ（ライセンス持ち込み）に対応する Remote Desktop Service CAL (Client Access License) も利用可能です。
 なお、Remote Desktop Service CAL はお客さまで準備し、構築・運用していただく必要があります。ライセンスモビリティの条件及びお客さまに実施いただく内容については「2.3.2. (3) マイクロソフト社アプリケーションサーバ製品のライセンス持込みについて」をご参照ください

(c) Red Hat Enterprise Linux Server OS（オプション）

RHEL Server OS について、当社より、サブスクリプション付のライセンスをご提供可能です。当社がライセンスを提供する場合、当社が OS のインストールまで行います。また、OS が動作する FMC IaaS 基盤に関連する技術サポートを提供します。

なお、レッドハット社の保守サポートが終了となったバージョンは、当該バージョンのサポート終了日をもって新規提供・保守サポートの対象外となります。

(d) アプリケーション動作検証用 OS について(オプション)

アプリケーション動作検証用でご利用になる場合は、原則評価版をご提供します。評価可能な期間以上の検証が必要な場合は、当社営業担当までお問い合わせください。

(2) マイクロソフト社アプリケーションサーバ製品のライセンス持込みについて

本サービスはマイクロソフト社ソフトウェア アシユアランスによるライセンス モビリティ（ライセンス持込み）に対応しています。ソフトウェア アシユアランスによるライセンス モビリティの対象となるアプリケーションサーバ製品（Microsoft Exchange Server、Microsoft SharPoint Server、Microsoft SQL Server など）については、同社最新の「製品条項(PT)」をご参照ください。

(a) ライセンスモビリティの条件

- ・ マイクロソフト社の最新の「製品条項(PT)」にライセンスモビリティの対象であることが記載されていること（ライセンスの評価）
- ・ 対象のボリュームライセンスに対して、ソフトウェア アシユアランス (SA) *があること（ライセンスの評価）
 *アップグレード権、教育、導入支援、技術サポート等の特典
- ・ マイクロソフト社にライセンス確認フォームを提出し、モビリティ対象である旨の検証を受けること（ライセンスの検証）

(b) ライセンスモビリティに必要な手順

- ・ ライセンスの評価及び検証（上記「(a) ライセンスモビリティの条件」）
- ・ インストール用メディアの準備

- ・ 仮想サーバへのインストール
- (c) ライセンスモビリティ製品（ライセンス）のサポート
- ・ 当該製品（ライセンス）のご質問などは、直接マイクロソフト社技術サポートへお問合せください

(3)ウイルス対策（オプション）

Windows 及び Linux サーバ向けに、トレンドマイクロ社製のウイルス対策ソフトの提供及びウイルス対策ソフトのインストール、インフォメーションサーバ(パターン配信サーバ)環境(共用)を提供します。

(4)その他

- (a) VMware Tools のインストール
- ・ ゲスト OS 環境（お客さま持ち込みの OS を含む）への VMware Tools の初期インストールは当社で行います
 - ・ VMware Tools のバージョンアップや再インストールはお客さまで実施いただきます
 - ・ VMware Tools のバージョンアップや再インストール後は仮想サーバの再起動が必要となります
- (b) 仮想サーバへのハイパーバイザーのインストール及び利用
- ・ 仮想サーバへのハイパーバイザー（VMware、Hyper-V、Xen、KVM 等）のインストール及び利用について、その動作を保証することができません

ネットワーク

(1) FMC IaaS のネットワーク構成

本サービスのネットワークはお客様レイヤ 2 ネットワーク、管理用ネットワーク及びアプリケーションバックアップ用ネットワークから構成されます。

各ネットワークは VLAN 技術を用いて論理的に分離し、閉域性を確保しております。

(a) お客様レイヤ 2 ネットワーク

- ・ 個人番号利用事務系や LGWAN 接続系等の各庁内 LAN をお客様庁舎から FMC アクセス回線を経由してデータセンターまで延長し仮想サーバに接続するネットワーク
- ・ アプリケーション事業者さまが構築した仮想サーバ上のアプリケーションに接続する際に利用するネットワーク

(b) 管理用ネットワーク

- ・ 仮想サーバの稼働状態や性能状態などの管理情報を収集する際に利用するネットワーク

(c) アプリケーションバックアップ用ネットワーク

- ・ 仮想サーバから仮想バックアップ用データストレージへのデータバックアップを行う際に利用するネットワーク

(2) インターネット接続 (オプション)

FMC IaaS 基盤からインターネットへの接続は、オプションサービス (別料金) にてご提供いたします。

インターネット接続 (オプション) は、ベストエフォート回線でのご提供を標準としていますが、お客様のニーズにより、専用回線でのご提供も可能です。

また、グローバル IP アドレスについても、オプションサービス (別料金) で必要数のご提供が可能です。

(3) グローバル IP アドレス (オプション)

インターネット接続サービスを利用し、インターネットにサーバを公開する場合、必ずグローバル IP アドレスが必要となります。グローバル IP アドレスは、当社が管理している IP アドレスプールから払出しします。IP アドレスの指定はできず、複数お申込みいただいた際、連番とならない場合があります。

(4)外部 DNS 環境（オプション）

データセンター内に設置している DNS サーバにより、DNS コンテンツサーバ及び DNS リゾルバサーバの機能をご提供します。ご利用料金はインターネット接続サービスに含まれます。

(5)NTP 環境

データセンター内に設置している NTP サーバをご提供します。当社の NTP サーバは国立研究開発法人 情報通信研究機構（NICT）の NICT 公開 NTP サービスを利用しております。

NTP 環境をご利用の際はサービス提供までに当社でインストールしたゲスト OS に NTP サーバ向けのスタティックルートを設定します。

(6)追加プライベートネットワーク（オプション）

リソースプール内の標準のネットワークに加えて、プライベートネットワーク（VLAN）をひとつまで追加可能です。ふたつ以上のプライベートネットワーク（VLAN）をご希望される場合は、当社営業担当までお問い合わせください。

(7)追加物理ネットワーク（オプション）

追加プライベートネットワークを利用して、FMC IaaS 基盤から、お客さまご契約ラック等への物理回線を構成するための物理ネットワークポートを提供します。標準 I/F は、1Gbps（メタル）となります。その他、光等の I/F は別途、お見積りとなります。

また、物理ネットワークポートから、ハウジングラック等への物理配線については、別途、構内配線のサービス利用料が必要となります。

(8)マネージド L2SW サービス（オプション）

当社ラック内に L2SW を設置し、L2SW の稼動監視、および設定変更など L2SW の構築、運用管理を行います。

(1) アプリケーション保守回線（オプション）

アプリケーション事業者さまに対して、業務アプリケーションの構築及び運用作業用のネットワーク（以下、「アプリケーション保守回線」と記す。）として、以下の2種類のアプリケーション保守回線サービスをご提供します。どちらも、インターネットに接続していない閉域網を使用しており、セキュアなアクセスが可能です。

サービス名称	QT PRO VLAN	QT PRO エントリーVPN
サービス分類	広域イーサネット	IP-VPN
使用するNW網	当社 閉域網	当社 閉域網
サービスの概要	LANスイッチ構成のNW網で、通信速度を保証しており、ルータ回線や網内の監視・保守が充実。	ルータ構成のNW網で、コア回線に「ロードバラン」回線を利用することで、低価格化。
アクセス回線	種別	イーサネット方式など
	通信速度	ギャランティ型〔帯域保証〕
	監視対応	24時間365日
	保守対応	24時間365日
NWの品質保証	サービス品質保証[SLA]あり	サービス品質保証[SLA]なし
利用可能プロトコル	レイヤ3以上は制限なし	IPのみ
提供エリア	九州内のQT PRO VLAN提供エリア 九州域外への接続回線メニューも有り	当社およびNTT西日本の光ブロードバンド回線の提供エリア（九州内）

※SLAは、当社が定める「LAN型通信網サービス契約約款」を適用します

QT PRO VLANは、0.5Mbpsから1Gbpsまでの帯域の中からニーズに応じた回線帯域を選択可能です。また、帯域保証については、バーストあり（ネットワークが混み合っていない場合、保証帯域を超えて最大帯域まで利用可能）とバーストなし（保証帯域＝最大帯域となり、帯域を100%保証）の2種類から選択可能です。

一方、QT PRO エントリーVPNは、ベストエフォート型のためSLA（サービス品質保証）はありませんが、QT PRO VLANに比べて安価となります。

アプリケーション保守回線の料金は個別お見積もりとなりますので、当社営業担当までお問い合わせください。標準工期は3ヶ月となります。

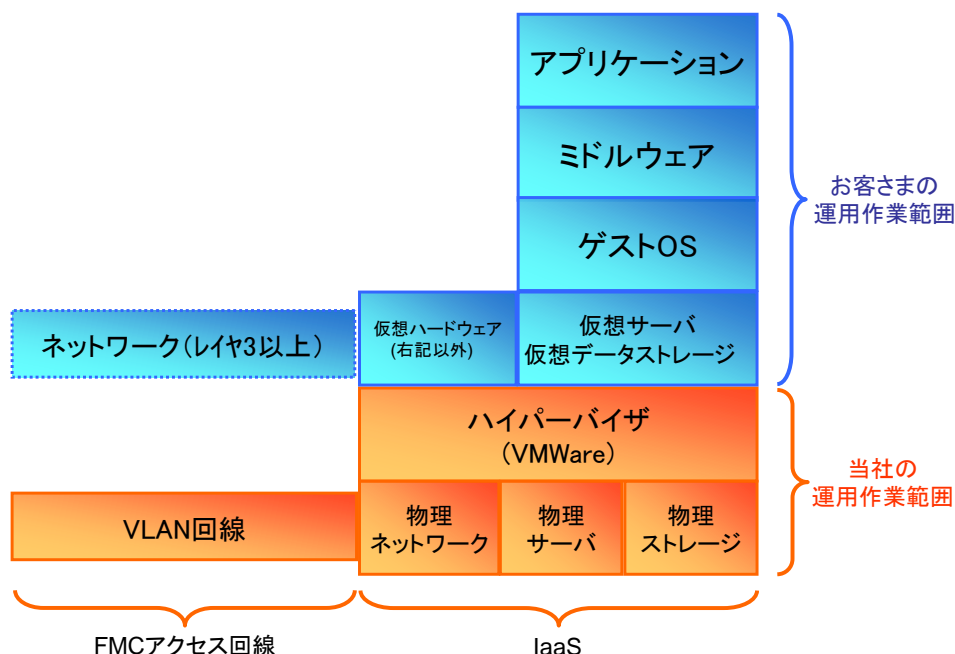
また、アプリケーション保守回線については、当社以外の通信事業者が提供する回線もご利用可能です。ご利用の際は別途、回線引込み費用、ONUのハウジング費用が発生する場合がありますので、当社営業担当までお問い合わせください。

運用管理

本サービスは、お客さまの重要な業務を支える社会インフラと認識しており、24時間365日、安定的に高水準のセキュリティを維持する体制を構築しています。

責任分界点

本サービスでの、お客さまと当社の責任分界につきましては、仮想ハードウェア及び仮想ハードウェア上のソフトウェアに係る運用作業がお客さま管理、仮想化基盤（ハイパーバイザ）、物理ハードウェア及びソフトウェア、並びにアクセス回線に対する運用作業が当社管理となります（下図参照）。



仮想ハードウェアの運用管理（お客さま運用作業範囲）

(1) Web ポータル機能を用いた仮想ハードウェアの監視

お客さま及びアプリケーション事業者さまは Web ポータル機能のリモート管理ポータル（vSphere Web Client）及び監視ポータル（Zabbix）を用いることで、仮想ハードウェアの操作や稼働監視をリモートで実施できます。

Web ポータル名称	主な機能
リモート管理ポータル (vSphere Web Client)	仮想ハードウェアのパワーオフ・オン、リソース使用率※の確認
監視ポータル (Zabbix)	仮想ハードウェアの死活状態、稼働状態及び性能状態の確認

※Web ポータル機能で確認できる CPU 使用率及びメモリ使用率は、仮想化ソフトウェアが認識している数値のため、ゲスト OS で確認できる数値とは異なります

(2) Web ポータル機能の利用方法

(a) 利用端末の環境

Web ポータルにアクセスできる端末環境は別紙「Ⅲ. Web ポータルアクセス端末環境条件」をご参照ください

アクセス経路

お客さま及びアプリケーション事業者さまが Web ポータル機能に接続する経路は次の 4 種類があります。

なお、Web ポータル機能に接続する際は、Web ポータルの URL の名前解決（ホスト名と IP アドレスの対応付け）を行うため、利用端末において、hosts ファイルの設定が必要になります。

(ア) FMC アクセス回線を経由したアクセス

お客さま庁舎から FMC アクセス回線を経由して、Web ポータル機能に接続する構成

(イ) インターネットからのアクセス(インターネット VPN)(オプション)

- ・ 主にアプリケーション事業者さまの事業所からインターネット回線を経由して、Web ポータル機能に SSL VPN 接続する構成
- ・ SSL VPN 接続は、利用端末に当社が提供する専用のクライアントソフトウェア (Cisco AnyConnect Secure Mobility 4.5) のインストールが必要です。詳細な接続方法は「SSL-VPN 接続操作手引き」をご参照ください
- ・ 利用端末のインターネット接続環境は、本サービスには含まれていませんので、個別にご準備ください
- ・ SSL VPN 接続用クライアントソフトウェアは Windows OS 端末のみサポートします別紙「IV. SSL-VPN 接続用クライアントソフトウェアについて」をご参照ください。

(ロ) アクセスブースからのアクセス (オプション)

データセンターでは、FMC IaaS 基盤へのアクセス環境として、アクセスブース(約 12 m²)を提供しています。アプリケーション事業者さまは、アクセスブースからお客さま環境へアクセスし、サーバの設定作業・メンテナンス作業などを行うことが可能です。

なお、アクセスブースは最短で 1 日から利用可能です。

(ハ) アプリケーション保守回線を経由したアクセス (オプション)

アプリケーション事業者さまの事業所からアプリケーション事業者さまが準備されたアプリケーション保守回線を経由して、Web ポータル機能に接続することが可能です。

本サービス用設備の運用・保守（当社運用作業範囲）

(1) 運用・保守体制

本サービスでは、お客さま満足度を向上させるため、お客さまとの間に単一の窓口として、サポートデスクを設け、問合せ対応及び問合せ履歴管理を一元的に行います。

ご質問やご依頼については、下記までご連絡ください。

(a) サポートデスク（お客さま連絡窓口）

受付内容	受付方法	受付時間	対応時間
障害に関する ご連絡及びお問合せ	電話	24 時間 365 日	24 時間 365 日
上記以外 (運用に関するお問合せ 等)	電子メール	24 時間 365 日	平日 9 時-17 時
	電話	平日 9 時-17 時	

※12月29日～1月3日までの間は休日扱いとします。

(2) 運用

(a) 監視サービス

以下の事態が発生した場合は当社からお客さまへ電子メールでご連絡します。

- ・ FMC IaaS 基盤(サービス)が停止した場合
- ・ エッジゲートウェイ
- ・ 仮想サーバが停止 (パワーオフ) した場合
- ・ 仮想サーバのリソース使用率 (CPU/メモリ/ディスク) が閾値を超えた場合
- ・ Web ポータル機能が停止した場合 など

(b) FMC アクセス回線の監視

FMC アクセス回線については、当社サービスオペレーションセンターで 24 時間 365 日、集中監視を行います。具体的には、G-VLAN 網の通信機器の監視、お客さま庁舎内に設置する光回線終端装置 (ONU) の状態監視を行います。

(c) ゲスト OS の監視 (オプション)

監視ポータルにてゲスト OS を監視するオプションサービスであり、プロセス (サービス) の監視、ログ (Windows : イベントログ、Linux : Syslog) の監視が可能となります。

(3) 保守

(a) 定期保守

本サービスを安定的に運用するため、物理ハードウェアを含む FMC IaaS 基盤の定期保守を行います。FMC IaaS 基盤の物理ハードウェアは冗長化しており、基本的に 1 台の物理ハードウェアを停止しても、お客さまの仮想サーバは停止しない設計となっていますが、FMC IaaS 基盤の一部サービスが停止する可能性があるため、定期保守時間中、お客さまの仮想サ

ーバをシャットダウンすることを推奨します。

(4) 定期報告

IaaS サービス開始後、1ヶ月毎に、IaaS 及びアクセス回線の運用保守実施状況について、当社より以下の報告資料を提出します。本報告は「定例サービスレベル報告」と合わせて実施します。

- ・ サービス実績の報告
- ・ 問題対応結果の報告
- ・ 再発防止策の提案
- ・ 計画・予防施策の提案
- ・ 実施対策の報告

詳細は、「4.1 サービスレベル」をご参照ください。

(5) 臨時保守

FMC IaaS 基盤で利用するソフトウェアに緊急度の高いセキュリティパッチがリリースされた場合等、お客さまに事前通知することなく、臨時保守作業を実施する場合があります。

(6) ハードウェア及びソフトウェアのバージョンアップへの対応

IaaS サービスで使用する物理ハードウェアのサポート切れに伴うリプレイスやソフトウェアのサポート切れに伴うメジャーバージョンアップ等の対応により、サービス内容が変更となる場合は、事前に通知します。

サービスレベル

サービスレベル

4.1.1 IaaS

IaaS のサービスレベルにおける評価項目及び目標値は、以下のとおりとします。

項目	概要	保証値
サービス時間	本サービスがお客さまに提供される時間帯	24時間365日
監視・通報時間	本サービスの稼働監視及び性能監視を行うとともに、障害発生時にお客さまへ通知する時間帯	24時間365日
サービス稼働率	計画点検・保守時間を除き、本サービスが稼働している割合	99.9%以上
1次報告タイミング	本サービスの障害後、障害発生をお客さまに通知するのに要する時間	20分以内
報告タイミング	本サービスの障害後、障害時の問題状況をお客さまに報告するのに要する時間	1日以内
帯域	データセンター内のLANの帯域	1Gbps以上

サービス稼働率は、お客さまに提供している仮想サーバの稼働が対象ですが、以下の適用除外事項については、サービス停止時間に含めないこととします。

(サービス稼働率における適用除外事項)

- ・ 定期保守、臨時保守によるサービス停止の場合
- ・ FMC IaaS サービス利用契約書(第 11 条)に定める「非常時における一時的な提供停止」に該当する場合
- ・ FMC IaaS サービス利用契約書(第 13 条)に定める「提供の停止等」に該当する場合
- ・ FMC IaaS サービス利用契約書(第 26 条)に定める「禁止事項」に該当する行為により、仮想サーバが停止した場合
- ・ お客さまによって仮想サーバが停止された場合
- ・ 冗長構成部の片系障害（もう一方は正常に稼働）の場合
- ・ 仮想サーバが HA 機能により再起動された場合
- ・ 仮想サーバが正常稼働中に、監視機能のみが停止した場合

- ・仮想サーバが正常起動中に、Web ポータルに不具合が発生し、接続できなくなった場合
- ・ゲスト OS 上にインストールされたドライバやゲスト OS 上の不具合（バグ）が原因で仮想サーバが停止した場合
- ・仮想サーバが正常稼動中に、お客さま環境、インターネット環境の不具合により仮想サーバと接続できなくなった場合
- ・ハイパーバイザ（VMWare）の不具合（バグ）により仮想サーバが停止した場合
- ・エッジゲートウェイの不具合（バグ）の場合
- ・仮想データストレージの不具合（バグ）の場合
- ・仮想バックアップ用データストレージの不具合（バグ）の場合
- ・他者サービス起因による障害の場合

4.1.2 アクセス回線

FMC アクセス回線のサービスレベルにおける評価項目及び目標値は、以下のとおりとします。

項目	概要	保証値
帯域	お客さま建物からデータセンターまでのアクセス回線の帯域	お客さまが選択する帯域
サービス時間	FMC アクセス回線がお客さまに提供される時間帯	24 時間 365 日
遅延時間	FMC アクセス回線の遅延時間の月間平均値	35 ミリ秒以下
故障回復時間	FMC アクセス回線の障害後、障害が回復するまでに要する時間	1 時間以内
監視・ 通報時間	FMC アクセス回線を監視し、障害発生をお客さまに通知する時間帯	24 時間 365 日
1 次報告タイミング	FMC アクセス回線の障害後、障害発生をお客さまに通知するのに要する時間	20 分以内
報告タイミング	FMC アクセス回線の障害後、障害時の問題状況をお客さまに報告するのに要する時間	1 日以内

(FMC アクセス回線のサービスレベルにおける適用除外事項)

- ・定期保守、臨時保守によるサービス停止の場合
- ・FMC IaaS サービス利用契約書(第 11 条)に定める「非常時における一時的な提供停止」に該当する場合
- ・FMC IaaS サービス利用契約書(第 13 条)に定める「提供の停止等」に該当する場合
- ・FMC IaaS サービス利用契約書(第 26 条)に定める「禁止事項」に該当する行為により、FMC アクセス回線が停止した場合

- ・お客さまの責により回線が停止した場合
- ・FMC アクセス回線構成が当社標準構成ではない場合
- ・アクセス回線構成機器の不具合（バグ）の場合
- ・他者サービス起因による障害の場合

定例サービスレベル報告

SLA を実効性あるものとするためには、サービスレベル管理のための仕組みが必要です。当社は、FMC IaaS のお客さまに対し、下表の事項について、月次でご報告します。

項目	記載内容案
サービス実績の報告	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスレベル達成状況（判定結果、点数等） ・サービスレベル未達成時の原因分析（業務・システムへの影響度分析）等
問題対応結果の報告	<ul style="list-style-type: none"> ・問題コントロール（識別、記録、分類、調査、診断、既知エラー確立） ・エラーコントロール 等
再発防止策の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・インシデントの再発防止策の検討、提案
計画・予防施策の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・課題事項の棚卸結果 ・キャパシティ増強、セキュリティ強化等（特に緊急対応が必要な）対応策の提案（施策内容、見積、スケジュール等）
実施対策の報告	<ul style="list-style-type: none"> ・変更、リリース結果 等

サービスレベルの改善

当社は、サービスレベルが未達成の場合、速やかに原因を究明し、業務への影響や緊急性等の重要性に基づき、リソースの増強や代替手段の適用など、暫定的、中長期的に必要な措置を講じます。

違約金の発生及び支払い

当社起因により、サービスレベルがお客さまと予め定める値を下回った場合は違約金を支払います。

なお、違約金の金額は、お客さまと協議の上、決定します。

別紙

本紙では FMC IaaS サービスの一部仕様について補足します。

I. 仮想化ソフトウェアについて

仮想化ソフトウェア	エディション	ESXi バージョン	ハードウェアバージョン
VMware vSphere 7.0	Enterprise Plus	7.0 U3m	19

II. 提供可能 OS について

提供サービス	対象リリース
Windows Server ライセンス	<ul style="list-style-type: none">• Windows Server 2022• Windows Server 2019• Windows Server 2016
Red Hat Enterprise Linux ライセンス (Standard サポート, Premium サポート共通)	<ul style="list-style-type: none">• Red Hat Enterprise Linux 9. x• Red Hat Enterprise Linux 8. x• Red Hat Enterprise Linux 7 ※

※最新バージョンのみ

III. Web ポータルアクセス端末環境条件

Web ポータル	使用可能ブラウザ
リモート管理ポータル (vSphere Client)	<ul style="list-style-type: none">• Microsoft Edge 90.0.818.39 以降 (2021年4月リリース版)• Mozilla Firefox 88 以降 (2021年4年リリース版)• Google Chrome 90 以降 (2021年4月リリース版)
監視ポータル (Zabbix)	<ul style="list-style-type: none">• Microsoft Edge 90.0.818.39 以降 (2021年4月リリース版)• Mozilla Firefox 88 以降 (2021年4年リリース版)• Google Chrome 90 以降 (2021年4月リリース版)

IV. SSL-VPN 接続用クライアントソフトウェアについて

SSL-VPN 接続用クライアントソフトウェア	使用可能 OS
FortiClient	• Windows 11 • Windows 10